

共生・公正・創造



# ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

## “ 「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?”

### 「国鉄改革の裏側」ダイジェスト版 第14回

あの元国鉄労働課長が明かす「国鉄改革の裏側第5弾」が【「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?”】という本になった。本紙は筆者（宗形明氏）の了解を得て、『JR東日本革マル問題の現状』をダイジェスト版として紹介することとした。

#### 「7.22宗形明・長野講演より」

「東労組長野地本主催7.22集会」は私に本書を書くよう動機付けてくれた集会である。当日、集会に参加し、私の話を熱心に聴いてくれた170名ほどの東労組組合員の真剣な表情や姿勢から発せられた何か“熱気”のようなものを感じた。

### 松崎明の大罪=JR労働運動に革マル思想を持ち込んだこと

こちらに来る新幹線の車中で「松崎明」氏が今度の記念大会で講演したという記録が手に入ったので気がついたことを話したい。おそらく来週の月曜日くらいに店頭で並ぶと思うが「週刊現代」に新しい記事が出る。皆さん、ちらちら聞いているかもしれないが、「週刊現代」の親元というのは講談社である。その講談社に株主総会の当日事故を起こした運転士と二人の人間が付いて、つまり三人で講談社に乗り込んだという事件である。実はそれが「柳原周治郎」、今は本部の副委員長かな。多分、浦和電車区事件が起こったときの大宮の委員長で、築次氏が副委員長。そんなことだったと思う。今は本部の副委員長らしい。実はそのことが出るらしい。私は「西岡さん」から電話で教えてもらった。そのとき思ったのだが「何て馬鹿なことをするのか。よりによって何でこの時期にするのか」不思議で仕方なかった。つまり、この時期に講談社に抗議してもプラスなんて一つもない。マイナスばかり。だから案の定、講談社側は「待ってました」ということでバシャバシャ写真を撮ったようである。来週出る週間現代、ぜひ買っていただきたい。そこに三人の写真が出るらしい。そのように聞いている。それは当たり前のことである。私は「飛んで火にいる夏の虫」という言葉があるが、大変馬鹿なことをするものだなと。そのことがよく分かったのは講演の中で松崎氏がちゃんと触れている。週刊現代が運転士を取材してそれを批判的に言っている。そのような記事が出ると松崎氏の周辺のいわゆる「松崎チルドレン」が自分のボスが何を考え、何を望んでいるか考え、動き出す、そのような習性がある。何故そのような事件が起こるかということ、松崎氏の影響力により勇み足だろうがなんだろうがそのようになってしまう。そこに問題がある。

「松崎明」の大罪は国鉄・JR労働運動に革マル思想を持ち込んだことと、内ゲバが導入された事である。これは松崎氏の大責任である。内ゲバ事件は18件起こり、その内の7人が死んでいる。7名が亡くなり沢山、重傷を負った人たちがいる。責任は松崎氏にある。不思議な事に被害者は動労と真国労である。動労は動労革マルであり真国労は国労革マルである。7人は松崎氏の犠牲者である。

【「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?” (高木書房) P.132~P.135】